

製品名: CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04356**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 50+65kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | CAMK2B CAMK2B; CAM2; CAMK2; CAMKB; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit beta; CaM kinase II subunit beta; CaMK-II subunit beta; CAMK2G; CAMK; CAMK-II; CAMKG; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit gamma; |
| 別名 | |
| 遺伝子 ID | 816/818/817 |
| SwissProt ID | Q13554/Q13555/Q13557 |
| 免疫原 | 抗血清は、Thr287 のリン酸化部位周辺のヒト CaMK2-beta/gamma/delta 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 253-302 |

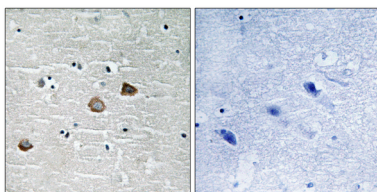
背景

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーおよび Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸作動性シナプスの可塑性の様々な側面において極めて重要である。哺乳類細胞において、この酵素は α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子産物は β 鎖である。この鎖の異なるアイソフォームは、それぞれ異なる細胞内局在を示し、カルモジュリンとの相互作用も異なる可能性がある。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014年5月]、代替産物: CAMK2B タンパク質の可変領域は、少なくとも7つのエクソン (V1~V7) によってコードされている。この領域内の選択的スプライシングにより、CAMK2B アイソフォームが生成されます。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。酵素調節: CAMK2 の自己リン酸化は、キナーゼ活性の調節において重要な役割を果たします。機能: CaM キナーゼ II (CAMK2) は、中枢神経系における主要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質放出に関与していると考えられています。興奮性シナプスにおける NMDAR シグナル伝達複合体のメンバーであり、AMPA の NMDAR 依存性増強およびシナプス可塑性を制御すると考えられています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CAMK2 は、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。異なるアイソフォームは、8~12のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。SYNGAP1 および CAMK2N2 と相互作用する (類似性による)。MPDZ と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。成人および胎児の脳で発現する。胎児の脳では発現がわずかに低い。

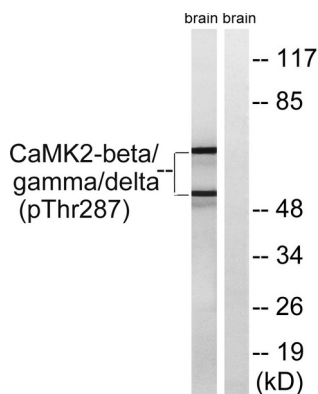
研究分野

ErbB_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

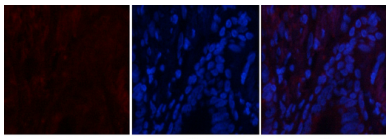
画像データ



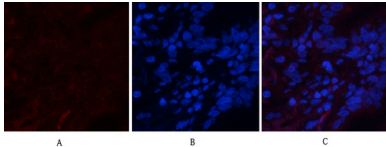
CaMK2-beta/gamma/delta (リン酸化 Thr287) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



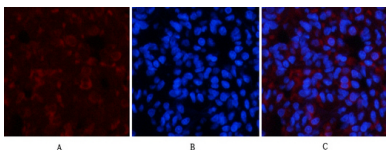
CaMK2-beta/gamma/delta (リン酸化 Thr287) 抗体を用いたラット脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



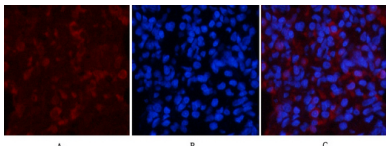
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



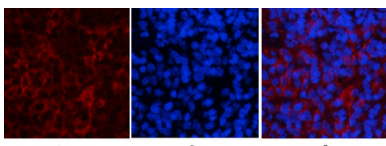
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



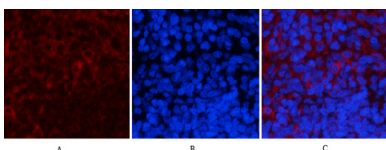
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



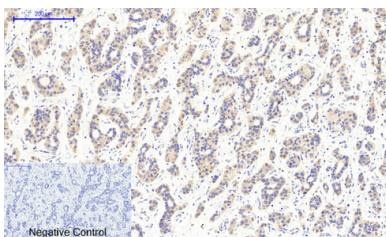
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. CaMKII β / γ / δ (リン酸化 Thr287) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。